

2024年度
第6回 理事会議事録

2024年 9月 24日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2024年度 第6回理事会議事録

1. 日 時 2024年 9月 24日 (火) 11:30~14:30

2. 場 所 鉄鋼会館 802号室

3. 構 成 員 14名

4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)

5. 議事次第

- (1) 開会の辞
- (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
- (3) 会長挨拶
- (4) 前回理事会議事録の確認
- (5) 報告事項
 - 1) 賛助会員との懇談会実施について
 - 2) 取組み課題 (委員会等検討体制) に関する確認について
 - 3) 委員会等活動状況報告
 - ① 運営委員会
 - ② 凶面問題対応検討WG
 - 4) 青年部との意見交換会について
 - 5) その他
 - ① 「社長の右腕育成講習会」募集について
 - ② 周年の記念誌発行に伴う協賛金について
 - ③ 技術アドバイザーの交代について
- (6) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2024年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
- (7) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「本日は、協会としての課題について、前回に続いて理事の皆さんと協議をさせていただき、本格的な活動に繋げていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2024 年度第 5 回理事会の要点を読み上げ、確認了承された。

(5) 報告事項

1) 賛助会員との懇談会実施について

本日開催される賛助会員との懇談会、懇親会について、別冊資料に沿って説明され、以下の内容が確認された。

- ・本日の賛助会員との懇談会について、スケジュール、概要、出席者等が説明された。
- ・懇談会の中の各地区の概況については、各理事（支部長）に説明をお願いすることが確認された。
- ・賛助会員企業との意見交換の段取りについて確認された。

2) 取組み課題（委員会等検討体制）に関する確認について

今後取り組むべき課題と検討の体制について、議案書（p3）に沿って説明され、以下の内容が確認された。

- ・8 月 27 日にオンラインで実施した理事会でも議論していただいた取組み課題の件について、本日あらためて確認を行う。
- ・対応方針については、“委員会検討する課題”、“執行部で整理する課題”、“情報収集を継続する課題”の 3 つに分類整理した。
- ・委員会で検討する課題については、技術と運営の両常設委員会と個別の WG で検討していただくこととした。
- ・“業界の地位向上に向けた発信強化”、“価格（維持）に関する活動”、“ゼネコン向け鉄骨教育”については、取組みの方向性について検討する必要があることから、執行部で預かり整理することとした。

3) 委員会等活動状況報告

①運営委員会

運営委員会について、議案書（p4-12）に沿って、妹尾委員長より内容が説明され、確認された。

- ・従来から運営委員会で行ってきた調査については、今後業界動向調査という名称に変更し実施することとする。
- ・本日理事会で承認をいただいた上で、明日から調査を開始し、11月に理事会で速報値を報告させていただくという段取りで進めたい。
- ・回答率は70%を目標とするので、ご協力をいただきたい。調査開始後、1週間毎に、回収状況を事務局から各県にご連絡し、フォローしていただく予定。
- ・検討課題については、本日の説明のあった取組み課題の方向性に沿って進めていくこととし、今後委員会での議論を深めていく。特に、人材確保に関する対応については、大きな視点で検討を行っていきたい。
- ・業界動向調査の調査項目については、特定技能外国人材、人手不足状況、鉄骨の生産数量、輸入鉄骨関連、賃上げ情報等が、新たに追加された項目。
- ・尚、輸入鉄骨に関する項目については、質問の表現等について、指摘があり、修正することとした。

②図面問題対応検討WG

図面問題対応検討WGについて、議案書（p13）と別冊資料に沿って、小貫専務から説明され、議論された。内容は以下の通り。

- ・弁護士と協議しながら「資料（鉄骨製作図の契約と法令）」の作成を進めている。
- ・資料は、「契約編（見積条件書）」と「法令編（建設業法・下請法解説）」の2部で構成されている。
- ・法令編では、図面に関する法令とその適用条件について解説している。
- ・特に、「法令解説」部分では、禁止事項とその具体的事例を説明した上で、国の対応（定期調査、相談窓口）を紹介している。
- ・一方、契約に対する法律適用、特に下請法の適用に関しては難しい部分がある。また、建設業法・下請法のいずれについても適用がない場合であっても独禁法違反に当たる可能性があることを解説している。
- ・この様な契約、法律に関する冊子を作成し、様々な機会を捉えて全国に、説明をしていく。
- ・「見積条件書」に関しては、来年の4月からの一斉使用に向けて活動を進めたい。
- ・法令編の扱い、特に下請法については、ゼネコン等に手の内をさらすことになりかねないという心配もあり、構成員限りとするなど、慎重な対応を考える必要がある。

- ・データで送ることは可能だが、まずは手に取って内容を確認していただくということで、各社に一冊ずつ送ることを検討する。
- ・きちんと使ってもらうためには、説明方法等の周知について検討が必要。まずは、支部会で説明の上、2次説明会として県組合の中で説明をお願いしたいが、どの様に行うかについては、各組合と協議が必要。
- ・見積条件書（別冊：2-4p）の説明会対応等を含め、11月の理事会で今後の対応内容、スケジュールを決定する。
- ・尚、過去に委員会等で作成した「付帯の見積書」、「見積チェックリスト」等の成果物が十分に活用されていないとの指摘があった。今一度、周知を行うとともに、あらためて活用の促進を図ることとした。

4) 青年部との意見交換会について

青年部との意見交換会について、議案書（p14）に沿って説明され確認された。

- ・前回理事会でも報告しているが、青年部との意見交換会を11月20日に開催する。
- ・今年はグループディスカッション方式で進めることとし、各理事（支部長）にもグループディスカッションに入ってもらい予定。
- ・理事の方には、青年部出席者の意見等を事前送付するので、確認の上、意見交換に臨んでいただきたいとの説明があった。

5) その他

① 「社長の右腕育成講習会」募集について

社長の右腕育成講習会の募集について、議案書（p15-18）に沿って説明され確認された。

② 周年の記念誌発行に伴う協賛金について

賛助会員の企業より、各都道府県の周年の記念誌発行に伴う協賛金について、全構協に対して、取り纏めの要請が来ている。先方に対しては、調整は困難な旨伝えているが、各正会員については、一定の配慮をする様お願いしたい。

③ 技術アドバイザーの交代について

現技術アドバイザーのお1人が、退任されることに伴い、新しい方にご就任いただくことが報告された。

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

本日現在の構成員数は、前回報告時(8月27日)より2社増加し、2,156社であること等が、議案書(p20-23)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

7月の鉄骨推定所要量は、ほぼ前年並みで推移している。低いレベルで動いており、引き続き状況を確認していく必要がある。

3) 2024年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p25)により確認された。

また、来年5月20日の理事会日程に関して、5月21日への変更可否の確認が行われた。

4) 支部報告

〔北海道〕

- ・ 前回報告時から著変なし。但し、釧路地区は、やや忙しい状況になっている。
- ・ 見積りも少なく、全体的に低いレベル。

〔東北〕

- ・ 活動レベルは、低い水準で横ばい状態継続。情報を共有しながら堪える期間。

〔関東〕

- ・ 図面承認の遅れもあり、工期遅れが目立つ。
- ・ 関東支部の中でも地域によるバラツキがあり、一部で価格も下落している。今後について心配している。

〔北陸〕

- ・ 前回報告から大きな変化なし。来春までは、仕事が少ない時期であり、県を超えた情報交換をしながら凌いでいく。
- ・ 水害の影響は確認中。

〔中部〕

- ・ 前回から大きな変化なし。
- ・ 年内は比較的忙しい状態だが、2025年度は仕事が薄い見通し、一方2026年度は仕事が増えるとの予測もある。
- ・ こういう時期は、商社・流通の動きに注意が必要。

〔近畿〕

- ・大きな変化はないが、仕事は少なく低迷状態。価格も下落傾向。
- ・リーマンショック後に似た空気感があり、難しい状況。
- ・万博開会も迫っているが、遅れの情報もあり、大丈夫かという状況。

〔中国〕

- ・都市部の仕事をしている会社はまわっているが、地元中心の会社は、仕事が枯れている状態。全体に低調であり、鉄骨だけで生きていくのは厳しい環境。
- ・あらためて、S造化の推進を進めるべき。

〔四国〕

- ・大きな変化なし。
- ・全体的に低いレベルで、先行きは不透明。中小の物件も少なく、今後を注視していく必要あり。

〔九州〕

- ・九州もあまり良くない状態で、特に九州の東側の大分、宮崎が良くない。
- ・足元は低い水準だが、2025～2026年は仕事がありそう。ゼネコン毎のバラツキがある。九州の中は、価格含め概ね落ち着いた状態。

(7) 閉会の辞

以上をもって、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 竹	良 明
〃	板 垣	昌 之
専務理事	小 貫	武
理 事	竹 原	慎 雅
〃	三 浦	隆 宏
〃	安 達	次 雄
〃	前 田	正 美
〃	稲 垣	法 信
〃	佐 野	勝 也
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	吉 岡	晋 吾

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	2名